

第1会場 ―― 「棘のエチュード」

第2会場 ―― 「ある日のソワレ」

第3会場 ―― 「Barrackの“^{rack}棚”」

茨木市立ギャラリー

10:00-19:00／最終日は17時まで／休：無休／茨木市立ギャラリーは11月12日（火）まで

茨木市福祉文化会館（オークシアター）

11:00-18:00／最終入場17時半まで／休：月・火 ※ただし11/4（月・祝）は開催

クリエイテーター1階喫茶・食堂スペース

11:00-18:00／イベントの日は開館・閉館時間が変わります。／休：月・火 ※ただし11/4（月・祝）は開催

入場無料

FUNNY

〔ファニーボーン〕

BONE

と

移動する日常

Nachie Ike/Imari Ito/Yurika Uematsu/Sayako Oguri/Koike Grunge/Kanako Kondo/
Fukumi Sukigara/Miki Takada/Miho Taguchi/Natsuki Baba/Taiki Furuhashi/Yukari Bunya/
Barrack (Taiki Furuhashi + Kanako Kondo)

池奈千江／伊藤衣穂／植松ゆりか／小栗沙弥子／こいけぐらんじ
近藤佳那子／鋤柄ふくみ／高田実季／田口美穂／馬場奈津紀
古畑大気／文谷有佳里／Barrack (古畑大気＋近藤佳那子)

2024.

10.26^{SAT}

—11.17^{SUN}

※茨木市立ギャラリーは11月12日（火）まで

Barrackの“^{rack}棚”

クリエイテーター1階喫茶・食堂スペース

第3会場「Barrackの“棚”」では作家や街の人と共に文化拠点の創出を図る様々なイベントが行われます。

―出張カフェBarrack

会期中の金曜（不定期）、土曜、日曜日

11:00-18:00

愛知県瀬戸市で運営しているカフェギャラリー、
Art Space & Cafe Barrackを週末限定オープン。

―金崎亮太によるアートトークサロン

郊外の街における文化振興のあり方をみんなで考える

10月27日（日）12:00-21:00

Barrackを取り上げ論文発表を行った金崎亮太と
豪華ゲストによるトークマラソン。

郊外の街でアートプロジェクトをやる意義とは？

アーティスト、行政を巻き込んだ本音のトークをお酒を交えて行います。

※参加無料申込不要

―鑑賞ワークショップ

「どこからどこまでが作品??―境界線をみる―」

11月2日（土）14:00-15:00（13:45集合）

茨木市職員がファシリテーターを務める！対話型鑑賞会。

展覧会場を散策して“作品だと思ふもの”を探します。

※参加無料申込不要（先着15名）

―出張ラマン

11月3日（日）11:00-18:00

茨木市で様々な人と文化のコミュニティを作ってきた
茨木ラマンによる間借りバー。

―ワークショップ

「ひらひら びかびか ねがいをこめて」

11月3日（日）①10:00-12:00 ②13:00-15:00

馬場奈津紀による子どもたちのワークショップ。

ねがいをこめて、ひらひらの紙やびかびかの金屏風に、
描いたり切ったり貼ったり…。みんなで楽しく作ってみよう。

対象：未就学児（3歳以上親子参加）、小学生

定員：各回10名／持ち物：飲み物（汚れてもいい服装で来てください）

参加費500円／事前申込：申込みフォーム

締切：10月20日（定員に達し次第募集を締切ります）

―トークイベント

HUB-IBARAKI ART PROJECT

「場づくりについて考える#02」

11月4日（月・祝）15:00-17:00

名古屋の港まちをフィールドにまちとアートをつなぐ活動を
展開するゲストをお迎えし、展覧会やアーティストのスタジオ事業、
AIR、空き家を活用した取り組みなど様々な活動を紹介いただきます。

ゲスト：Minatomachi Art Table, Nagoya [MAT, Nagoya]、

アッセンブリッジ・ナゴヤ ディレクター

吉田有里（アートコーディネーター）、青田真也（アーティスト）

聞き手：内田千恵（HUB-IBARAKI ART PROJECT ディレクター）、

雨森信（HUB-IBARAKI ART PROJECT アドバイザー）

参加費無料／事前申込：申し込みフォーム

主催：公益財団法人茨木市文化振興財団

―トークイベント「Funny boneと移動する日常」

11月9日（土）15:00-17:00

本展覧会企画者 Barrackと参加作家、

そして茨木のアートユニットOne Art Projectによるクロストークを行います。

司会：山城大督（茨木市出身、美術科・映像作家、京都芸術大学准教授）

※参加無料申込不要

―「Bar かき殻」[小池喬 弾き語りライブ]

11月16日（土）Bar: 17:30-21:00（20:30ラストオーダー）

LIVE: 18:00-19:00

アーティストの伊藤衣穂と三浦紗和子が開くこの日だけの特別なバー。

小池喬（こいけぐらんじ）によるアコースティックライブも。

※LIVE: 投げ銭・1ドリンク制 申込不要

―茨木市の有志の方々による喫茶

不定期

茨木で活動続けるいくつかの魅力的なチームが参加してくれます！

※詳細はInstagram @cafebarrack にてご確認ください

特別連携企画

茨木市福祉文化会館（オークシアター）

―One Art Project企画展

「理性的な問いと、不合理な答え real SOU #14+」

出展作家：櫻井類・松田啓佑・三宅砂織

11月9日（土）17:30-19:00

「アーティストトーク」福祉文化会館2階

―金崎亮太による特別寄稿とインタビュー映像展示

郊外の街における「アートコレクティブ」による継続的な活動意義

One Art ProjectとBarrackによるピアレビュー（相互評価）を通じて
双方の活動意義を考察し、その成果を論文、動画として展示発表します。

アクセス

―茨木市立ギャラリー

〒567-0816 大阪府茨木市永代町1-5（阪急茨木駅ロサヴィア2階）

電車：阪急茨木駅より徒歩1分

―茨木市福祉文化会館（オークシアター）

〒567-0888 大阪府茨木市駅前4丁目7-55

電車：阪急茨木駅より徒歩15分

―クリエイテーター

〒567-0888 大阪府茨木市駅前4丁目6-16

電車：阪急茨木駅より徒歩15分

お車：茨木市中央公園駐車場をご利用ください（茨木市駅前4丁目9-38）



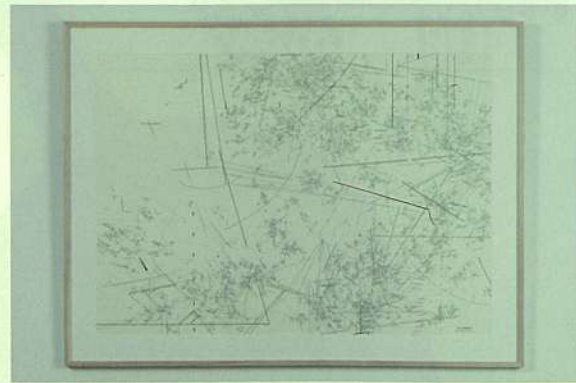
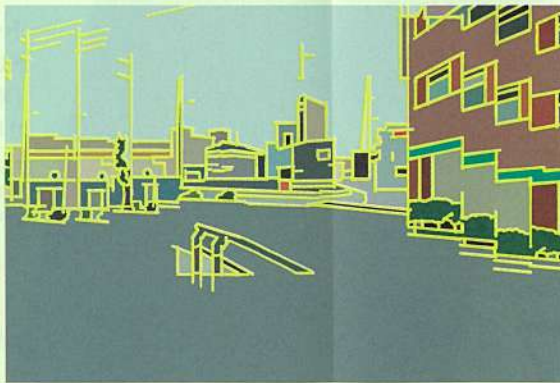
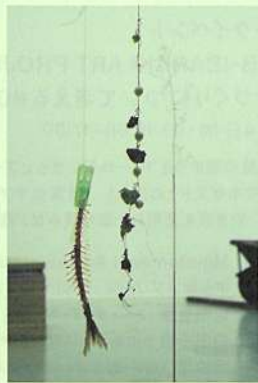
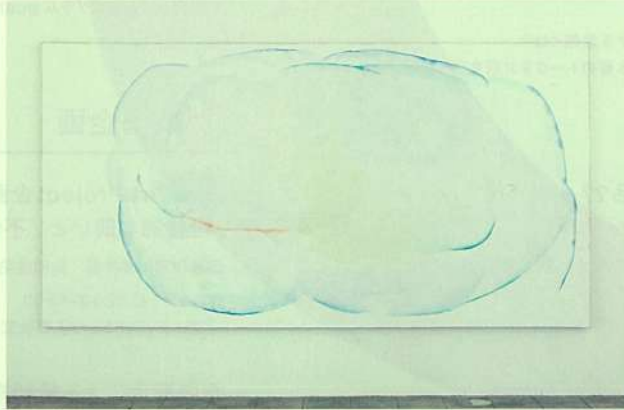
移動する先々で、目にするものや出会う人は私の骨や肉になり、
その日々にくすぐられるようにして、私は半ば反射的に手を動かし続ける。

時に棘のある低木に分け入るように、思考や手を慎重に動かし日々のエチュードは繰り返される。
そうして生み出されたものは、ある日のソワレでいつかあなたをくすぐることが出来るかもしれない。

本展は、愛知県瀬戸市を拠点に活動する作家、
近藤佳那子と古畑大気によるアートユニットBarrack（バラック）が企画する現代美術の展覧会です。
3つの会場を舞台に構成される本展は、Barrackがこれまで関わってきた愛知県近郊の
作家達を広く紹介し、彼らが日々を通して継続してきた、繰り返し考えつくること、その本質に迫ります。
また、これまで様々な土地で創造の場を共有・生み出してきたBarrackが会期中も稼働し続けるスペース
“棚”を立ち上げ、食やトークを通じて作家や街の人と共に文化拠点の創出を図ります。
茨木市のアートユニットOne Art Projectとの繋がりをきっかけに
数年にわたって親睦を深めてきたBarrackがこの街で出来ることは何なのか？
街や人が展覧会を通して交わりながら、文化的創造が持続し、また新たに創られていくことを目指します。



撮影：城戸保



1 2 3
4 5 6 7
8 9 10 11
12 13

- 池奈千江** Nachie Ike
主な展示に、「ALA Project No19」(2013/アートラボ あいち)、「remind」(2018/ART Space & Cafe Barrack)、「バンジーの香り」(2021年/See Saw gallery + hibit)、「まばゆいばかりの」(2023/SANTOKO Gallery)など。
- 伊藤衣穂** Imari Ito
1997年富山県生まれ。近年の主な展示に、「木木木(もり)の卒展 愛知県立芸術大学卒業・修了作品展」(2023/愛知県立芸術大学)、「Light Swimming」(2022/Cafe Löffel)、「horror runner」(2021/愛知県立芸術大学2F次元)など。
- 植松ゆりか** Yurika Uematsu
静岡県生まれ。ぬいぐるみなどを用いて、生き物による供物や祭壇を思わせるインスタレーションを制作する。最近の主な展覧会に「ひらいて、むすんで」(2024/岡崎市美術館、愛知)、「Strange Harvest」(2023/L gallery、愛知)など。
- 小栗沙弥子** Sayako Oguri
岐阜県生まれ。日常の中で発生する瑣末な不用物やそれにまつわる出来事を基に制作。最近の主な展覧会に「第3期コレクション展」(2022/愛知県美術館、愛知)、「個展 Rue」(2019/Projeto Fidalga、サンパウロ)ほか。
- こいけぐらんじ** Koike Grunge
2005年愛知県立芸術大学油画科卒業。音楽活動に専念したのち、「うんこドリル」(文響社)のイラストや、「ニャンちゅう! プラネタリウムチュー!」の背景美術などを担当。2021年頃から大学卒業以来となる油画制作を再開。
- 近藤佳那子** Kanako Kondo
近年の主な展覧会に、「いのちの移ろい展」(2021/碧南市藤井達吉現代美術館)、「瀬戸現代美術展2022」(2022/瀬戸市菱野団地各所)、「Toss, The Ball」(2023/tou;)など。
- 鋤柄ふくみ** Fukumi Sukigara
1982年石川県生まれ。最近の主な展覧会に、個展「風景」(2023/Art Space & Cafe Barrack、愛知県瀬戸市)、「real SOU #13 「す」、「し」と「せ」のあいだ」(2024/大阪府茨木市)など。
- 高田実季** Miki Takada
「Shimmer」(2022/なうふ現代)、F+Project「ARTFUL CAMPUS」(2021/名古屋工業大学)、「北へ」(2020/Art Space&Cafe Barrack)、「Kakslauttanan Artists' Residency Program」(2019/フィンランド)
- 田口美穂** Miho Taguchi
近年は風景をモチーフに絵画制作をしている。主な展覧会に、「明るくする」(2022/see saw gallery +hibit)、「山山」(2021/Art Space & Cafe Barrack)、「MAT, Nagoya Studio Project vol.3」(2016)、「drawings 考える手」(2008/名古屋市民ギャラリー矢田)(いずれも愛知)ほか。
- 馬場孝津紀** Natsuki Baba
置く、巻く、吊るすといった単純かつ最小限の行為を通し、何かと何かが出会うことで生まれる関係性の構築に焦点を当てた作品を制作。世界がもっとぐるぐる回っていくような程良い関係性を探っている。産後、約2年ぶりの展示。
- 古畑大気** Taiki Furuhashi
近年の主な展覧会に「あるくみるであう。邂逅とまなざし」(2022/Maebashi Works)「書庫と瀬戸」(2022/書庫と〇〇)、「瀬戸現代美術展2022」(2022/瀬戸市菱野団地各所)、「Toss, The Ball」(2023/tou;)など。
- 文谷有佳里** Yukari Bunya
音楽のバックグラウンドを持ちながら、即興で描かれる有機的な曲線と記号的な直線が重なり、重層的な広がりを感じさせるモノクロドローイングを制作。ピゴッツィコレクション、東京都現代美術館、愛知県美術館、埼玉県立近代美術館などに作品が収蔵されている。
- Barrack** (古畑大気+近藤佳那子)
Barrack (Taiki Furuhashi+Kanako Kondo)
近藤佳那子と古畑大気によるアートユニット。
2017年愛知県瀬戸市でカフェとギャラリーの機能を持つ「Art Space & Cafe Barrack」をオープン。
月毎の企画展に加え、トーク、ライブ、ワークショップなども開催。また、Barrackとしてアートイベントやプロジェクトに参加し、自主企画も行。美術・食・歴史・音楽・造形教育といった多層的な要素を取り込みながら、人との関わりの中で作品やスペースを展開する。